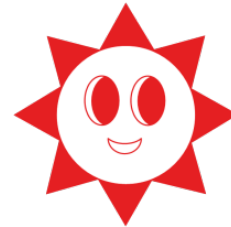


ケンコーマヨネーズ株式会社【証券コード：2915】

2026年3月期 決算説明会



2026年5月22日

1. 2026年3月期 決算概要
2. 2027年3月期 業績予想
3. 中長期経営計画
『KENKO Vision 2035』について
4. 資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について
5. 質疑応答

1. 2026年3月期 決算概要

代表取締役社長 島本 国一

2026年3月期 決算ハイライト（連結）



売上高 **+0.7%**
営業利益 **△14.3%**

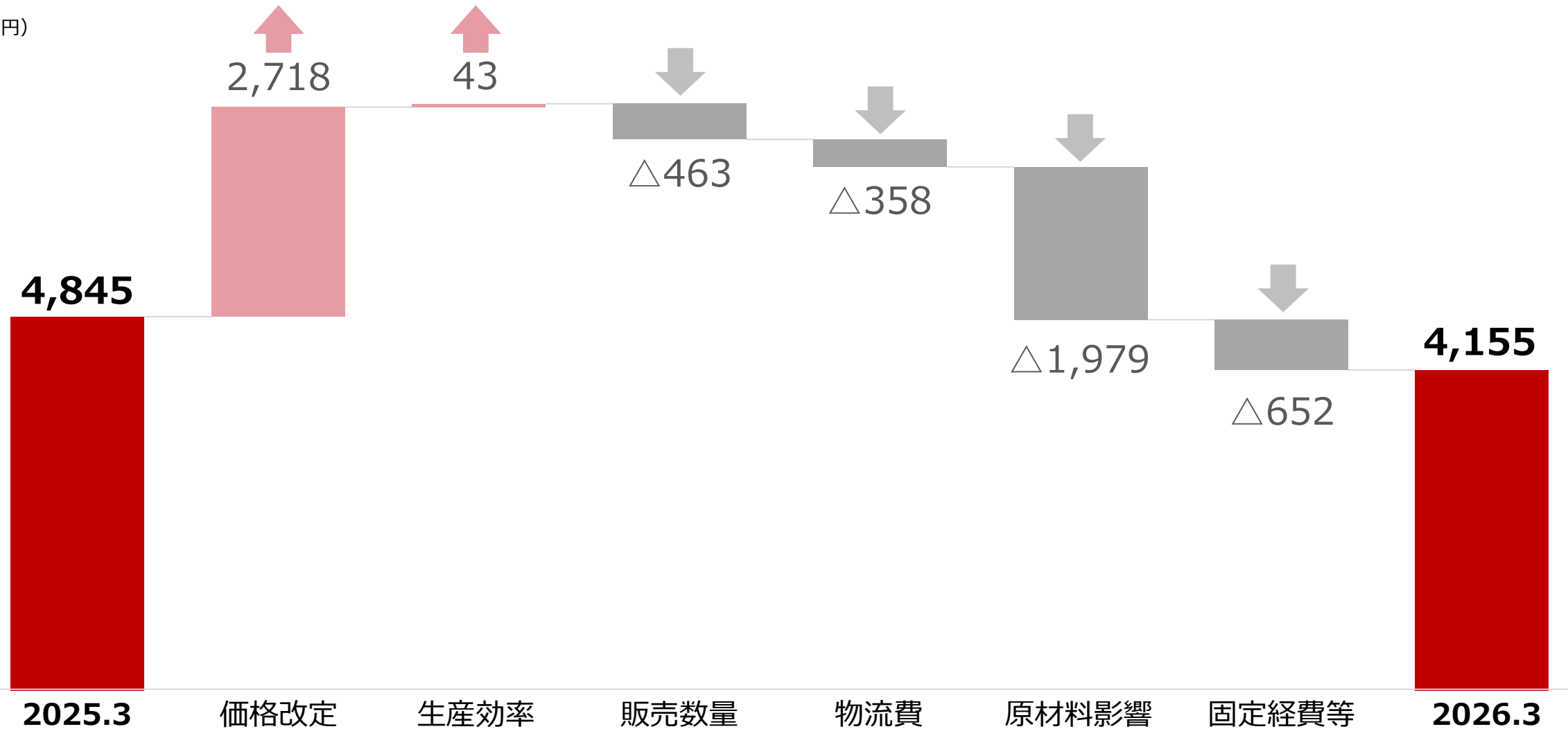
- ・マヨネーズ・ドレッシング類、ポテトサラダが伸長
- ・鶏卵相場の高止まりによる原材料費の増加

▶ 前年同期比で **増収・減益**

	2025年3月期		2026年3月期	
	実績		実績	前年同期比
(単位：百万円)				
売上高	91,703		92,354	+0.7%
売上総利益 (売上総利益率)	20,537 22.4%		20,857 22.6%	+1.6%
販売費及び一般管理費 (販管费率)	15,691 17.1%		16,702 18.1%	+6.4%
営業利益 (営業利益率)	4,845 5.3%		4,155 4.5%	△14.3%
経常利益 (経常利益率)	4,999 5.5%		4,329 4.7%	△13.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,503 3.8%		2,926 3.2%	△16.4%
1株当たり当期純利益	221円62銭		198円99銭	
EBITDA (EBITDAマージン)	7,248 7.9%		6,911 7.5%	△4.6%

連結營業利益 増減要因 <前年同期比>

(単位：百万円)



前年同期比 Δ 690百万円

セグメント別実績

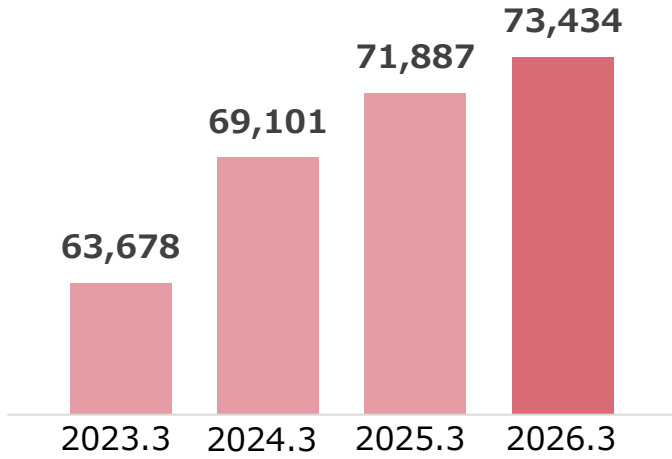


(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期	前年同期比
売上高	91,703	92,354	+0.7%
■ 調味料・加工食品事業 ※ケンコーマヨネーズ本体の事業	71,887	73,434	+2.2%
■ サラダ・総菜類	20,948	21,324	+1.8%
■ マヨネーズ・ドレッシング類	27,355	28,478	+4.1%
■ タマゴ加工品	21,795	21,807	+0.1%
■ その他	1,788	1,823	+2.0%
■ 総菜関連事業等 ※連結子会社の事業	18,954	18,180	△4.1%
■ その他 ※サラダカフェ	861	740	△14.1%
セグメント利益	4,845	4,155	△14.3%
■ 調味料・加工食品事業	3,894	3,094	△20.6%
■ 総菜関連事業等	862	1,004	+16.4%
■ その他	3	△35	—
調整額	84	91	+8.2%

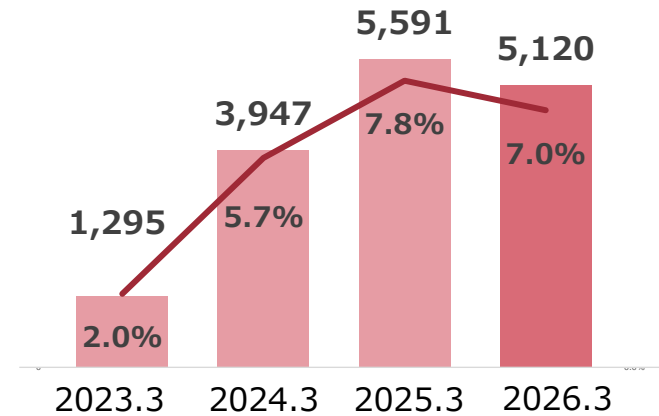
セグメント別実績 ■ 調味料・加工食品事業



■ 売上高 (単位：百万円)



■ EBITDA・EBITDAマージン (単位：百万円)



売上高

増収
(前年同期比+2.2%)

- ・サラダ・総菜類は、ポテトサラダが増加
- ・マヨネーズ・ドレッシング類は、マヨネーズ類、ソース類が増加
- ・タマゴ加工品は、タマゴサラダ、ゆで卵、錦糸卵等が増加

セグメント利益

減益
(前年同期比△20.6%)

- ・価格改定のタイムラグ
- ・鶏卵相場の高止まりによる原材料費の増加
- ・固定経費等の増加

▼5月1日発売 秋冬向け新商品



世界各国で親しまれている、その土地ならではの美味しさをお届けするドレッシングのブランド「世界を旅するドレッシング」をラインナップ。多彩な美味しさと楽しさで新たな食文化を共創する5品を発売しました。

▼dancyu祭2026に出展



「酒のつまみにもぴったりの主役になるサラダ」をテーマに、Salad Cafeの華やかな盛り付けが目を引くサラダと、ご家庭で手軽にプロの味が楽しめる調味料を多数ご用意。野菜の魅力を最大限に引き出すサラダ料理で来場者の皆さまに新たな食体験をご提供しました。

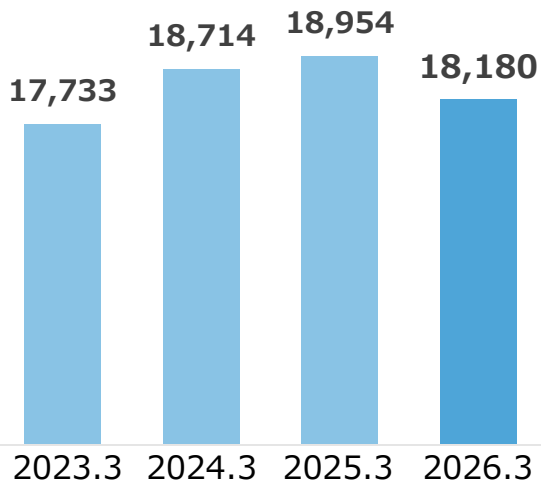
セグメント別実績

■ 総菜関連事業等

■ その他



■ 売上高 (単位: 百万円)



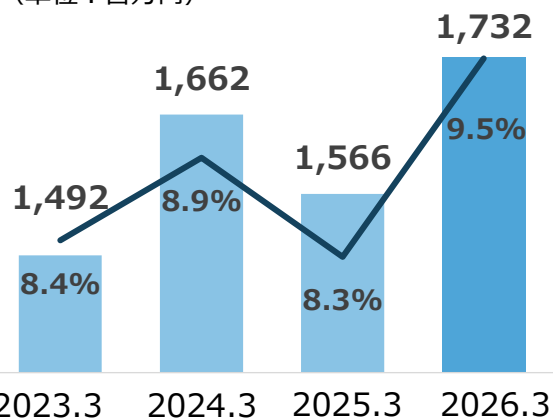
売上高 減収
(前年同期比△4.1%)

- ・販売チャネルの拡大
- ・高付加価値商品の開発
- ・販売先の内製化により減収

セグメント利益 増益
(前年同期比+16.4%)

- ・価格改定の実施
- ・相乗積 (売上構成比×粗利率) の可視化
- ・新規カテゴリーへの参入

■ EBITDA・EBITDAマージン (単位: 百万円)

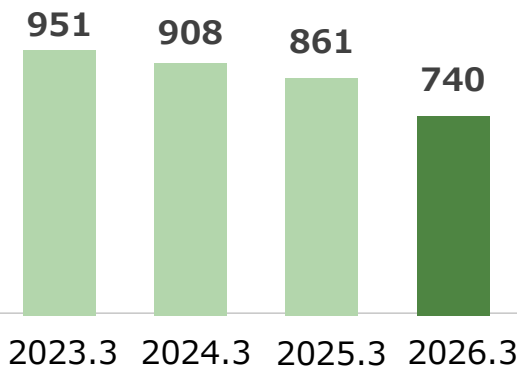


▼九州ダイエツクック 地元・佐賀の高校生と共同開発した 惣菜を限定販売



地域貢献活動の一環として、2023年よりコラボ企画を実施。今回は、大切な人に食べてもらうことをコンセプトに考案した、『みつせ鶏の食べくらべ4点盛り』を地元のスーパーで販売し、地域の魅力発信に繋がりました。

■ 売上高 (単位: 百万円)



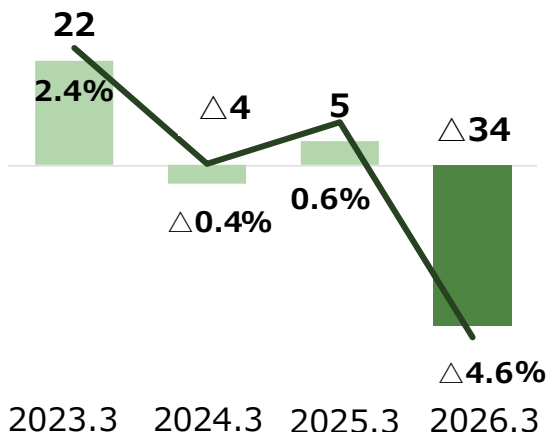
売上高 減収
(前年同期比△14.1%)

- ・3店舗の退店
- ・原材料価格の高騰

セグメント利益 減益
(前年同期比-)

- ・経費対策、店舗対策、商品対策による仕組みの見直し

■ EBITDA・EBITDAマージン (単位: 百万円)



▼Salad Cafe

食材の美味しさを引き出した
「サラダ料理」3品を発売

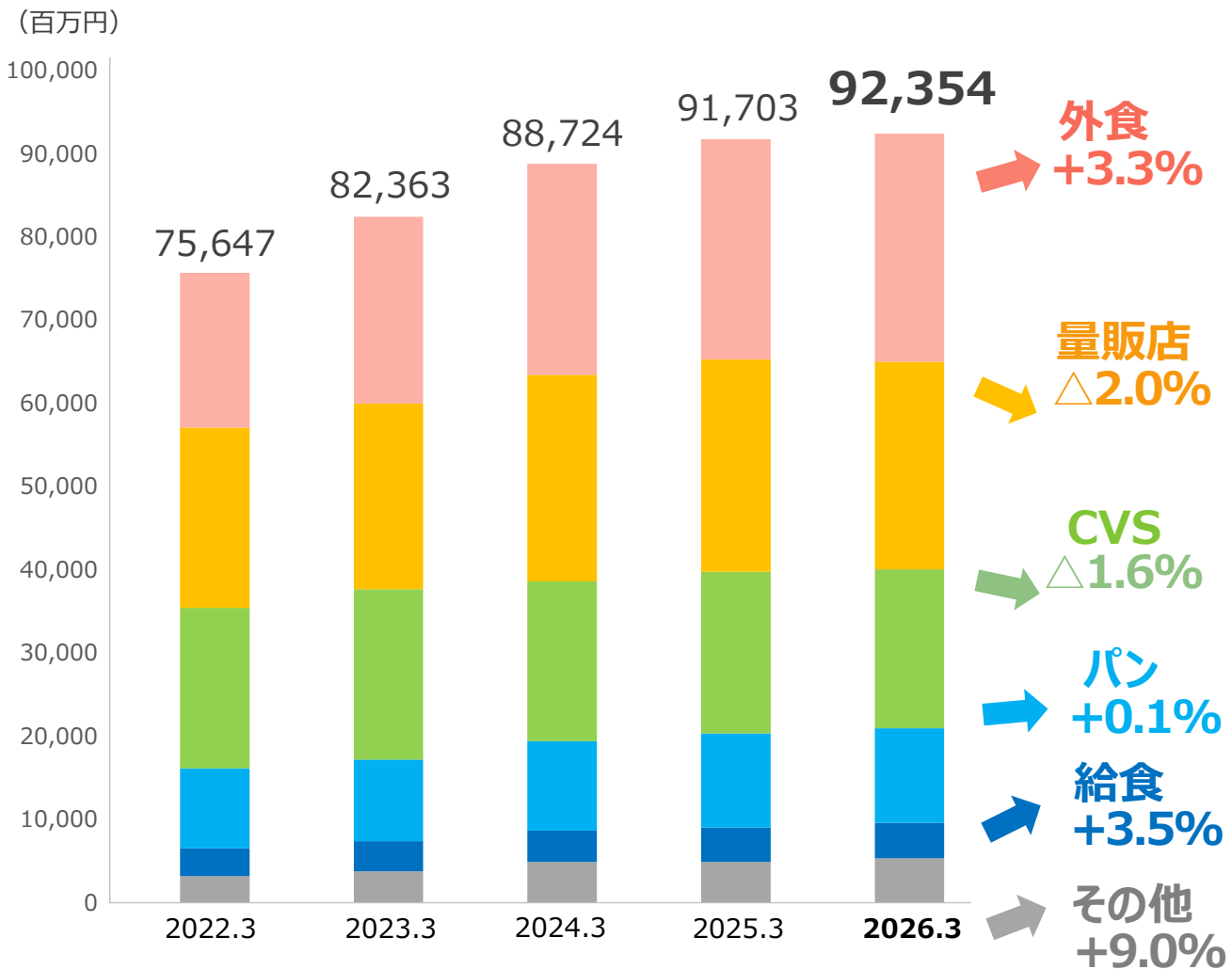


野菜と肉をキーに、調理法や組み合わせる食材、調味料を工夫し、その新しい楽しみ方を提案する「サラダ料理」として開発。ごちそう感あふれる新しい味わいをご提案しました。

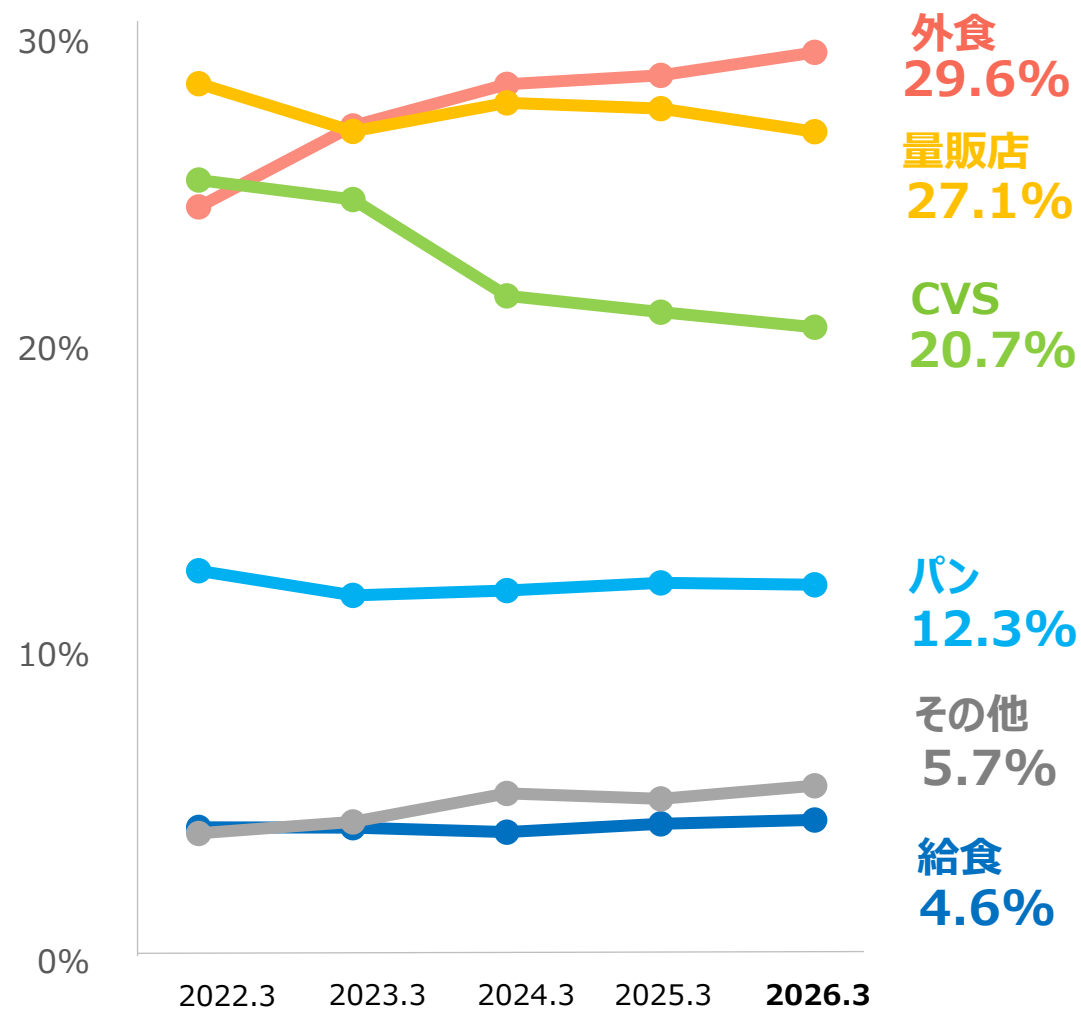
販路別売上高（連結）



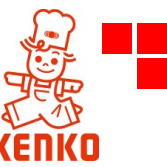
販路別売上高



販路別売上高 構成比



貸借対照表（連結）



		2025年3月期	2026年3月期	前年度末比
※1：長期未払金を含む（単位：百万円）				
資 産	流動資産	34,312	33,733	△1.7%
	固定資産	29,767	30,188	+1.4%
資産合計		64,080	63,922	△0.2%
負 債	うち有利子負債残高 ^{※1}	5,482	4,796	△12.5%
		24,116	22,358	△7.3%
純資産		39,963	41,563	+4.0%
負債・純資産合計		64,080	63,922	△0.2%
1株当たり純資産		2,678円13銭	2,886円81銭	-
自己資本比率		62.4%	65.0%	+2.6ポイント
ネットD/Eレシオ		△0.3倍	△0.2倍	-

ポイント

▼資産

- ・現金及び預金の減少 2,241百万円
- ・原材料及び貯蔵品の増加 613百万円
- ・機械装置及び運搬具（純額）の減少 815百万円
- ・建設仮勘定の増加 570百万円
- ・差入保証金の増加 207百万円

▼負債

- ・電子記録債務の減少 631百万円
- ・未払法人税等の減少 620百万円
- ・長期借入金の減少 522百万円

キャッシュ・フロー計算書 及び 設備投資額・減価償却費 (連結)



キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2025年 3月期	2026年 3月期	増 減
営業キャッシュ・フロー	4,594	2,940	△1,653
投資キャッシュ・フロー	△1,062	△ 2,706	△1,644
フリーキャッシュ・フロー	3,532	234	△3,298
財務キャッシュ・フロー	△3,531	△ 2,475	+1,055
現金及び現金同等物の 期末残高	15,729	13,487	△2,241

設備投資額・減価償却費

(単位：百万円)	2025年 3月期	2026年 3月期	増 減
設備投資額合計	945	2,618	+1,672
調味料・加工食品事業	681	2,232	+1,550
総菜関連事業等	263	383	+120
その他	-	2	+2
減価償却費合計	2,402	2,756	+353
調味料・加工食品事業	1,696	2,026	+329
総菜関連事業等	703	728	+24
その他	1	1	△0

営業CF

税金等調整前当期純利益と減価償却費の増加、
棚卸資産の増減額の減少

投資CF

有形固定資産、無形固定資産の取得による支出

財務CF

自己株式の取得による支出

2. 2027年3月期 業績予想

2027年3月期 業績予想（連結）



売上高 +5.0%、営業利益△3.7%

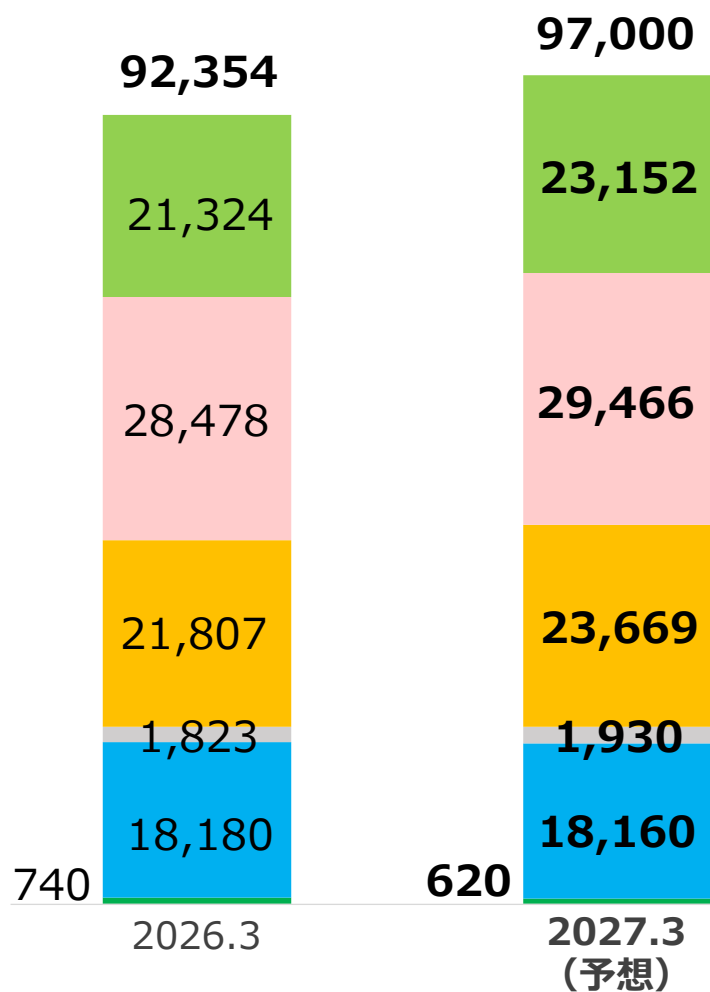
▶ 外部要因の影響による原材料費の上昇、価格改定の実施

	2026年3月期 (実績)	2027年3月期（予想）	
	金額	金額	前年同期比
売上高	92,354	97,000	+5.0%
営業利益	4,155	4,000	△3.7%
	% 4.5%	4.1%	
経常利益	4,329	4,150	△4.1%
	% 4.7%	4.3%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,926	2,840	△3.0%
	% 3.2%	2.9%	
1株当たり当期純利益	198円99銭	193円09銭	
EBITDA (EBITDAマージン)	6,911 7.5%	6,623 6.8%	△4.2%

2027年3月期 セグメント別売上高予想



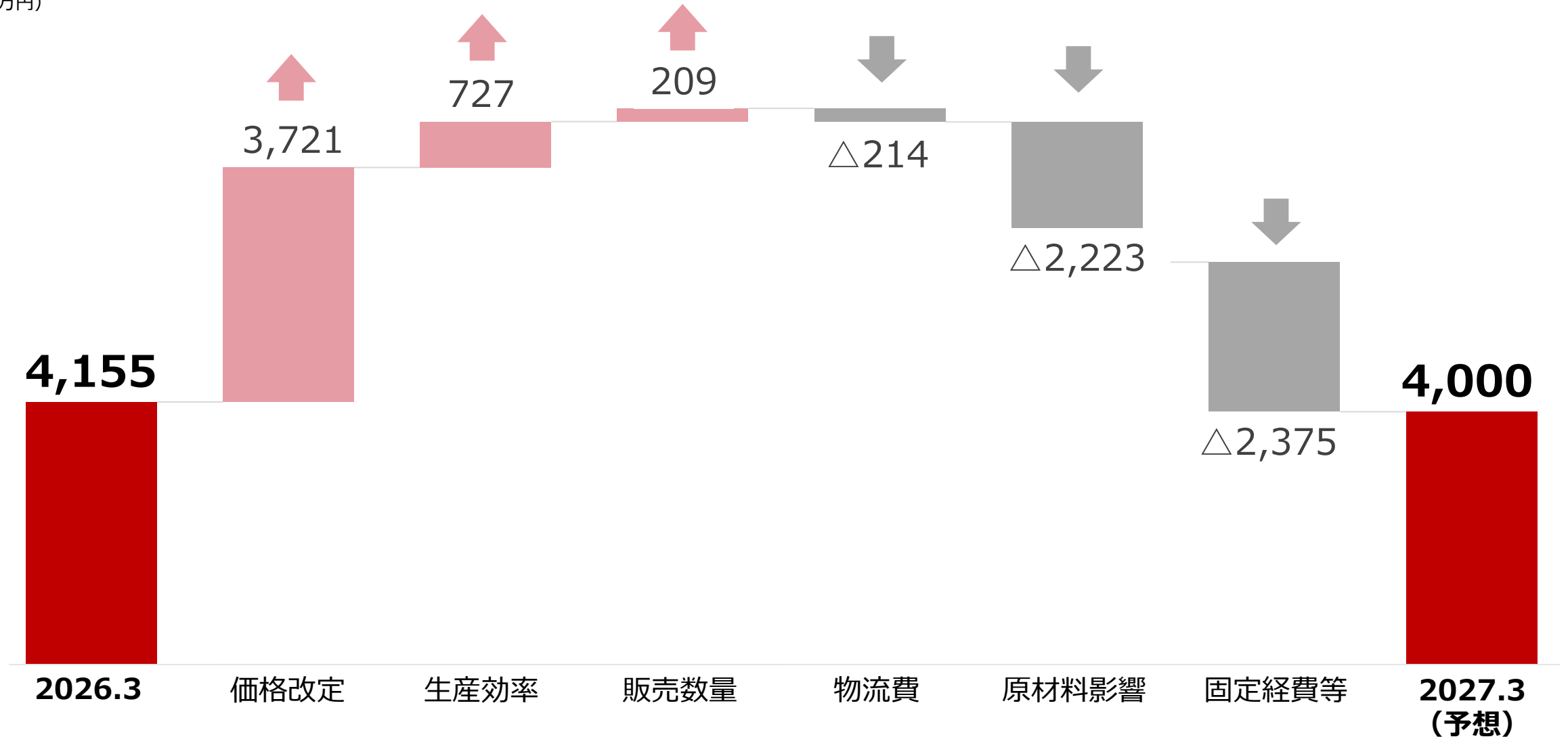
(単位：百万円)



セグメント	前年同期比	今期ポイント
■ 調味料・加工食品事業	+6.5%	● 顧客INの発想による数量回復 ● 販促企画キャンペーンの実行 ● 価格改定の実施
■ サラダ・総菜類	+8.6%	
■ マヨネーズ・ドレッシング類	+3.5%	
■ タマゴ加工品	+8.5%	
■ その他	+5.9%	
■ 総菜関連事業等	△0.1%	● 品質、美味しさに、コスト管理とスピード感を加え、お客様に感動していただける商品作り
■ その他 (サラダカフェ)	△16.2%	● 2店舗退店 (2026年4月、5月)

連結営業利益 増減要因 <見通し>

(単位：百万円)

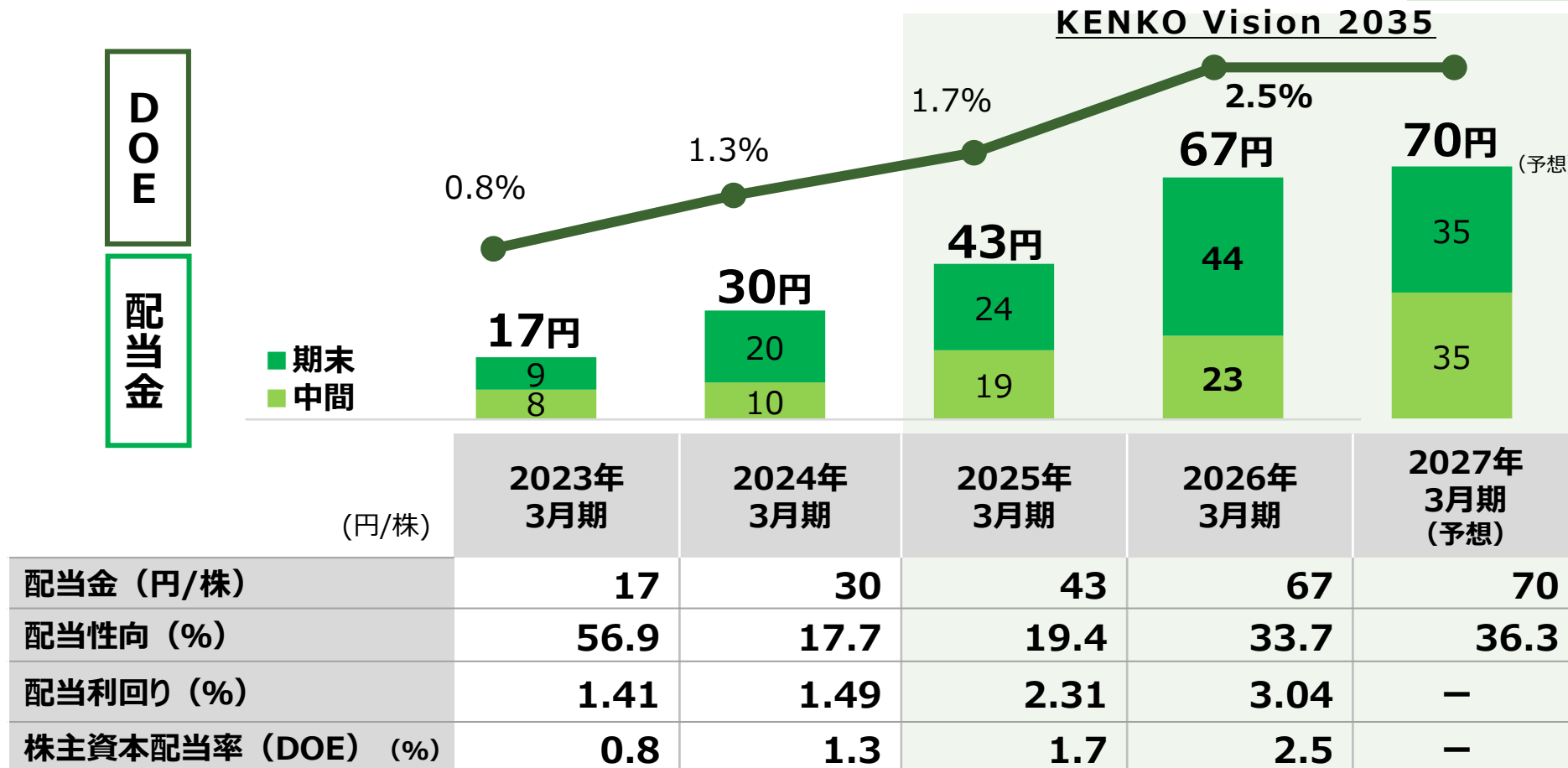


前年同期比△155百万円

株主還元・配当予想



配当金 (通期)	2026年3月期	2027年3月期 (予想)	Phase1 (2025年度～) DOE 2.5%以上
	67円	70円	



配当性向 = 1株あたり配当金 ÷ 1株あたり純利益 × 100

配当利回り = 1株あたりの配当金(合計) ÷ 各年3月末日時点株価(終値) × 100

株主資本配当率 (DOE) = 配当金総額 ÷ ((期首株主資本 + 期末株主資本) ÷ 2) × 100

3. 中長期経営計画 『KENKO Vision 2035』について

『KENKO Vision 2035』基本方針

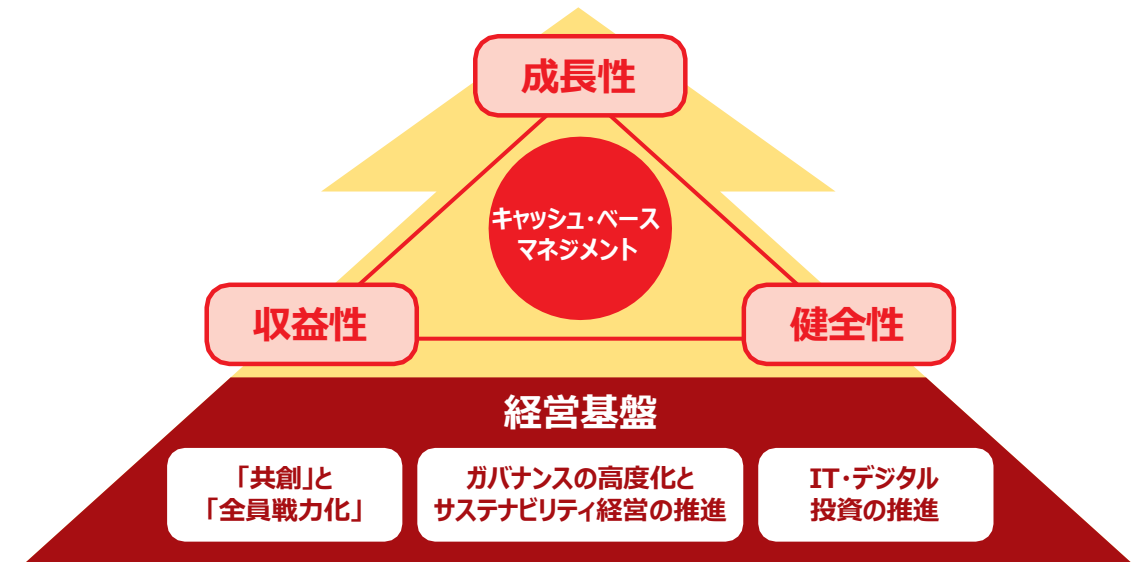


企業理念 (ミッション+パーパス)	守るべきもの 使 命 ▶ 心身（こころ・からだ・いのち）と環境 ▶ 食を通じて世の中に貢献する。
ビジョン (目指すべきもの)	『サラダ料理で世界一になる』
コンセプト	『Global Food Solution Company』への転換 ～食の「困った」を「ワクワク・ドキドキ」に変える～

基本戦略



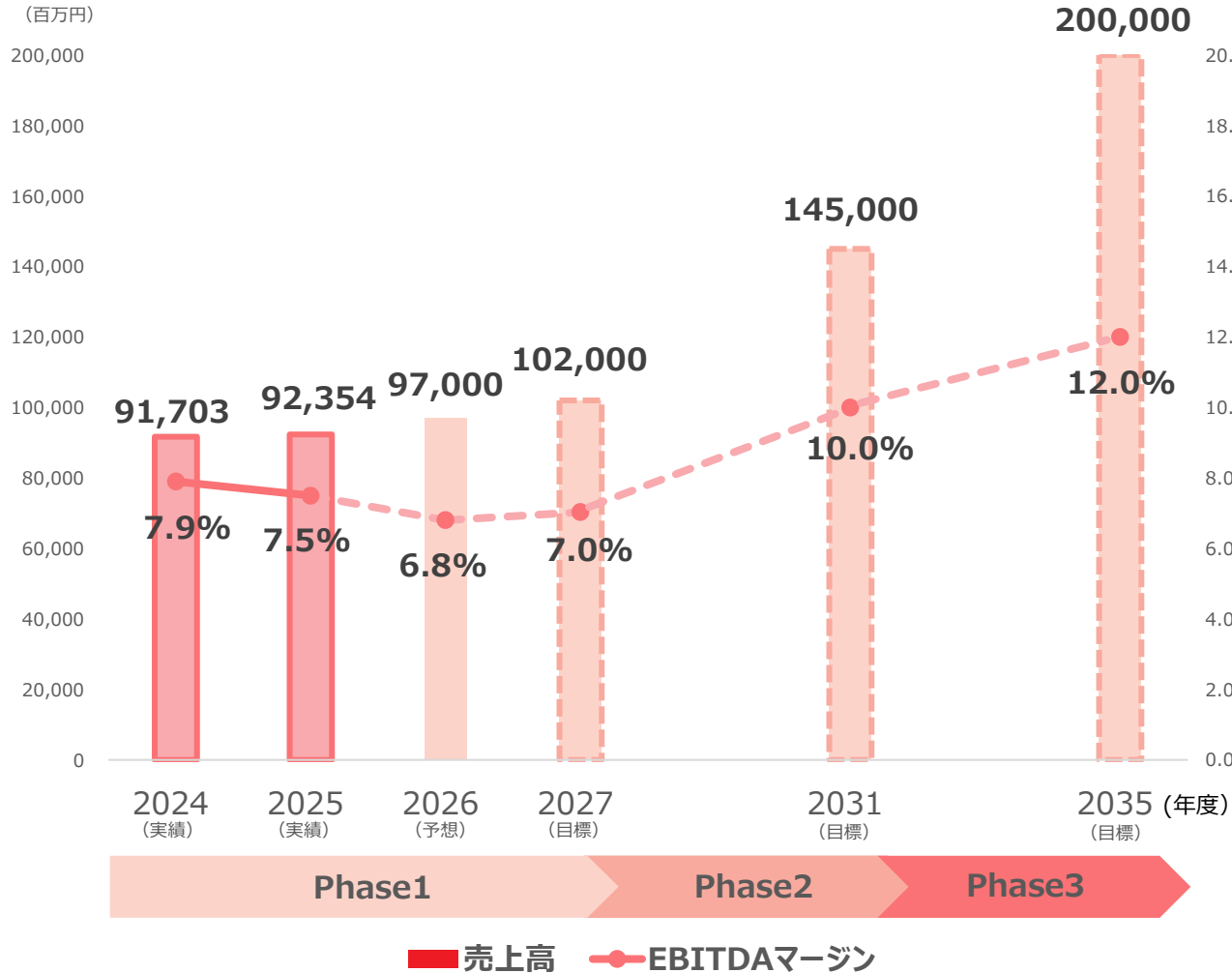
企業価値向上と株主還元の強化



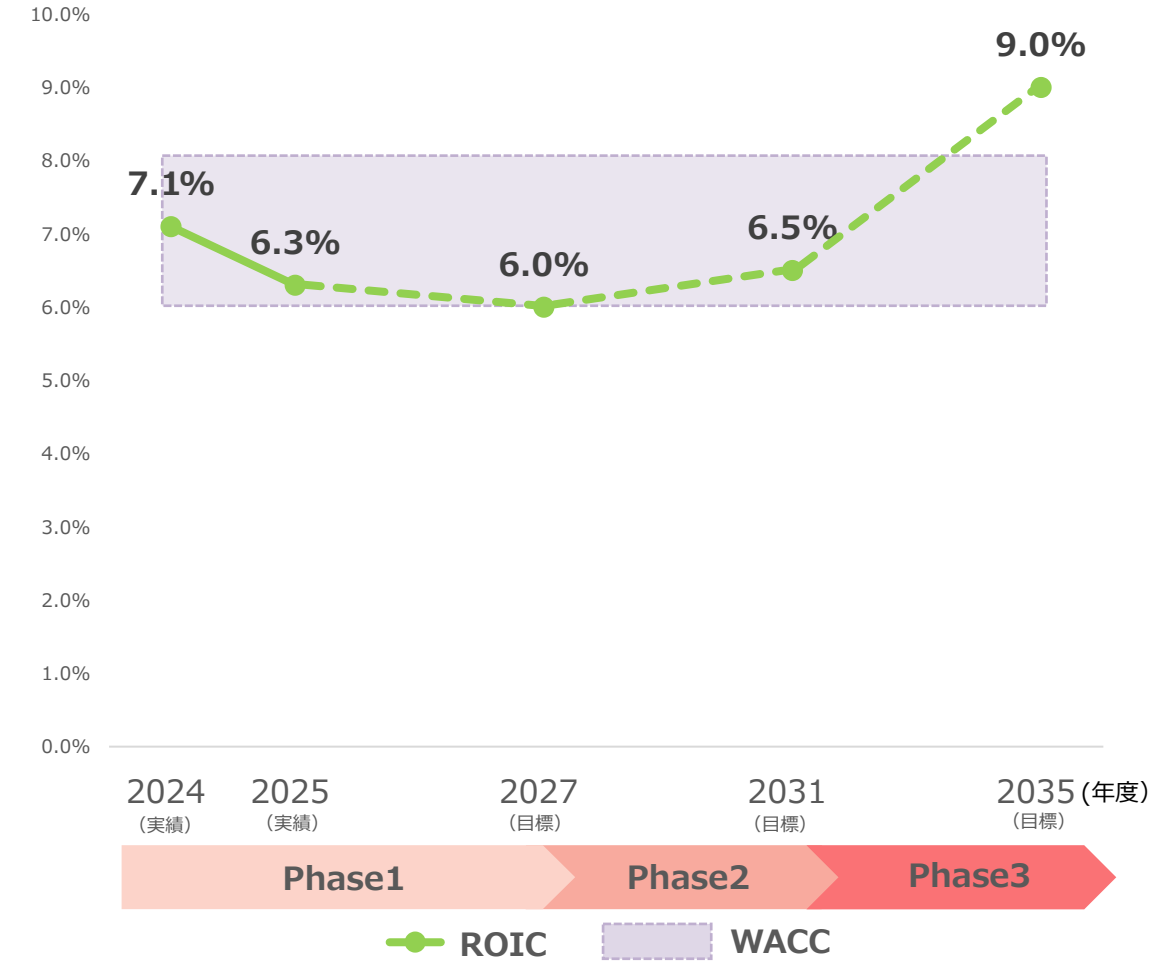
中長期経営計画 年度別経営目標：実績・目標



連結売上高・EBITDAマージン



ROIC



大阪・関西万博に出展（2025年8月）

“サラダ料理で育む未来”をテーマに食体験を提供
『和Oh!!SANDWICH』のサラダ料理教室を開催

サステナブルな商品やサラダ料理の考えを発信し、その魅力を世界に広げて未来につなぐ



東京本社移転（2026年2月）

お客様との **接点拡大** と **提案力強化** による価値の創出
インキュベーション施設 構想

従業員のエンゲージメント・生産性の向上、働き方の質の改善も



▲Cooking Lab

▲カフェテリア「K.Brew Cafe」

集約生産による効率化

関東ダイエットエッグ 会津若松工場 を閉鎖し、
静岡富士山工場 へ集約（2026年2月移行完了）

目的

- ・グループ内生産性最適化
- ・設備老朽化対応

投資額

2.5 億円

集約生産によるコスト低減 約 **2.8** 億円/年

地球環境への配慮

神奈川県「森林再生パートナー制度」へ参画
「心身（こころ・からだ・いのち）と環境の森」と命名



▲2026年2月
神奈川県庁にて感謝状贈呈式



▲森林に看板を設置

旧東京本社（杉並区高井戸）から 事業開発本部・品質保証室 新木場へ移転

2026年10月～

研究開発のレベルアップ
イノベーション施設 構想



BXとIT戦略の融合

営業支援ツールの導入
情報のワンストップ化

- ・「お客様を待たせない」
新たな価値の創出
- ・顧客接点拡大

研究開発 ～ 資金回収期間の短縮
→ ROICの向上を図る

生産能力の向上

2026年9月～

西日本工場：新設の小型容器ソースライン稼働予定

目的

- ・生産能力増強
- ・設備老朽化対応
- ・山梨工場との2拠点生産による
稼働の平準化と商品の安定供給

投資額

約 26 億円

- ・西日本工場のライン新設
- ・山梨工場のライン増強（2027年6月予定）

投資による営業キャッシュ・フロー 約 **2.5** 億円／年

「ごぼうサラダ」発売40周年



※発売当初のパッケージ

1986年

日本で初めて「ごぼうサラダ」を発売

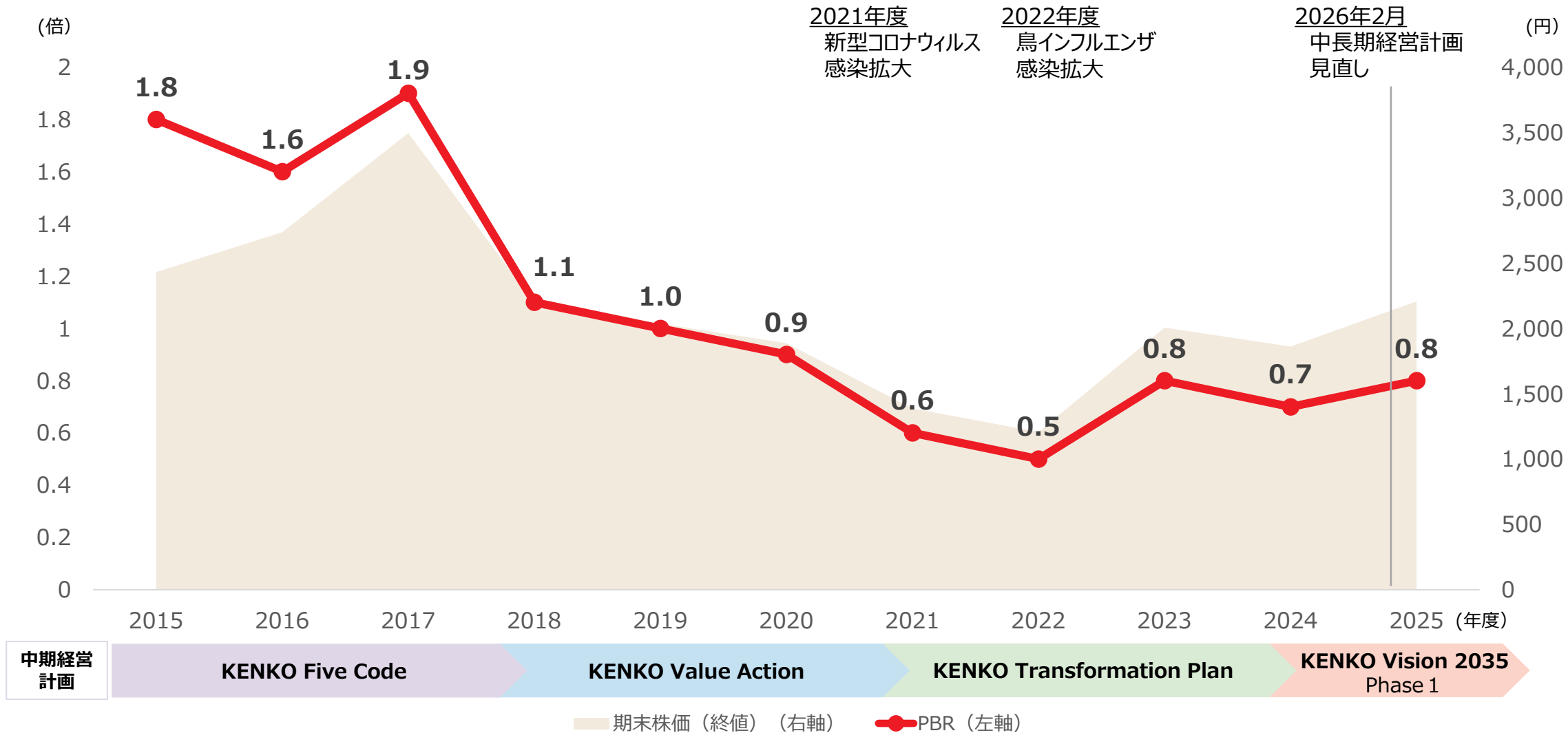
40年間の感謝を込めて
様々な取組みを準備中

4. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

現状分析① -株価とPBRの推移-



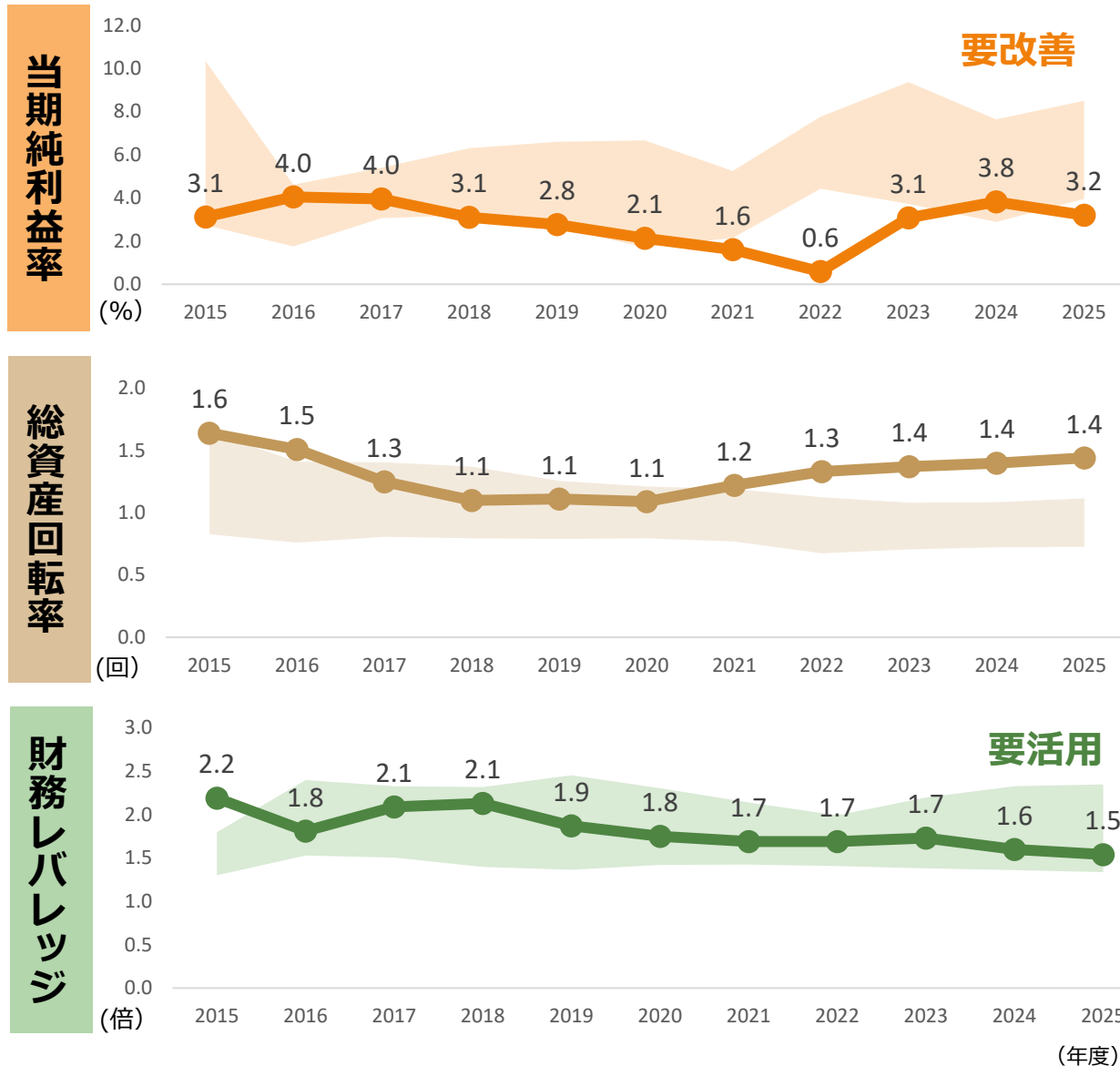
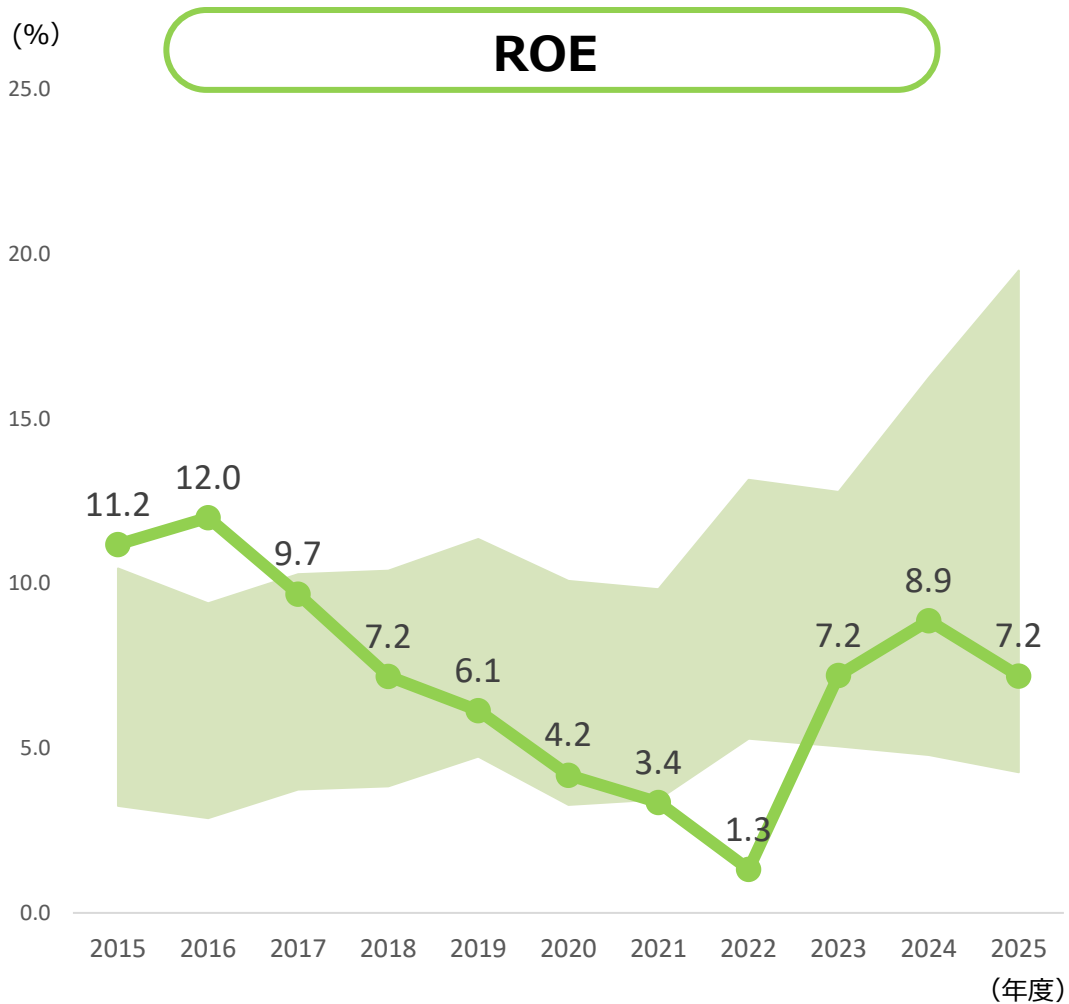
PBRは2024年度から+0.1ポイント改善



現状分析② -ROEの分解-



資産回転率の高さが当期純利益率の劣後を補完



※国内調味料業界売上高上位5社との比較 (最大値と最小値)

企業価値向上に向けて



キャッシュアロケーション -Phase1-

Phase1での中心的な成長ドライバーとなるM&A投資について投資枠を設定

2024-2025年度実績（累計）

キャッシュイン

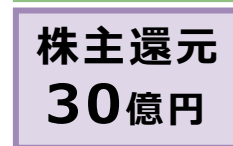
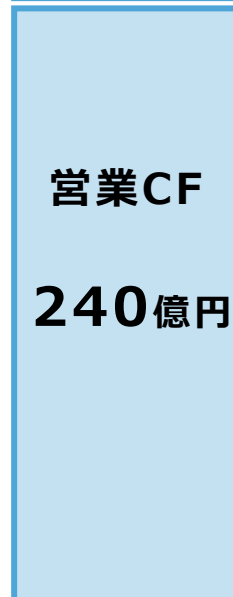
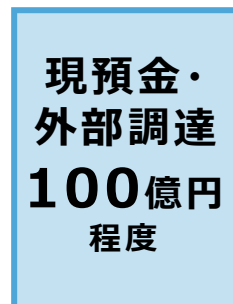
キャッシュアウト



Phase1計画（2024～2027年度）

キャッシュイン

キャッシュアウト



M&A投資枠
200億円程度

設備投資等
50億円

- ・グループ再編
- ・設備能力増強

基盤強化投資
60億円

- ・環境投資
- ・東京本社移転
- ・IT投資

DOE 2.5%以上目標

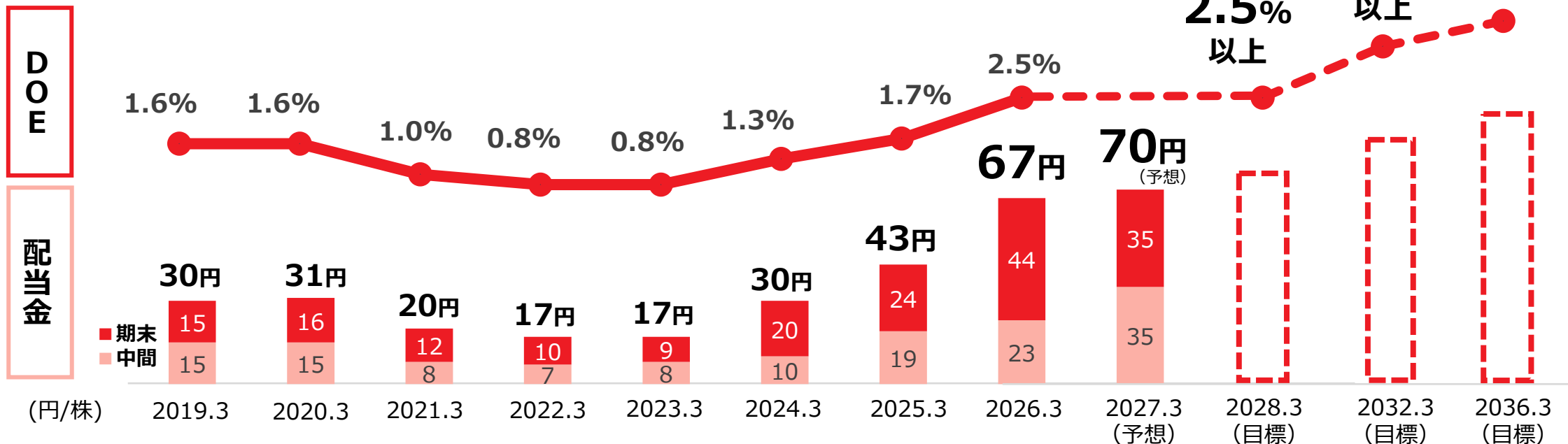
株主還元

2025年度実績

■ 年間配当金：通期 **67円**（前期比24円増配）

■ DOE： **2.5%**

DOE目標



株主資本配当率 (DOE) = 配当金総額 / ((期首株主資本 + 期末株主資本) ÷ 2) × 100

▼IR活動の強化を通してPBR改善を図る

市場との対話強化

2025年度実績

- 機関投資家向け決算説明会：3回実施
- IR面談の実施 ※：63件
- 個人投資家向け会社説明会：3回参加



2026年度 東京本社での開催を検討

※決算説明会は含まず

IR活動の基盤整備

- 統合報告書（日英）の発行
トップメッセージのWeb版作成
- IR体制の強化



主な対応者

決算説明会 (ハイブリット開催)	代表取締役会長、代表取締役社長 上席執行役員 財務戦略担当 執行役員 経営企画室 室長 経営企画室 経営管理部 部長 管理本部 財務経理部 部長
IR面談	執行役員 経営企画室 室長 経営企画室 経営管理部 部長
個人投資家向け会社説明会	代表取締役社長、取締役副社長
株主総会	全取締役及び監査役

対話の主なテーマ

- ・価格改定の状況
- ・事業拠点の再編など投資計画
- ・海外展開など今後の成長戦略
- ・鶏卵相場の動向
- ・株主還元

対応状況

- ・価格改定進捗率等の説明
- ・工場再編の状況について説明
- ・市場環境の説明
鳥インフルエンザ対策の説明
- ・株主還元も含めた
中長期経営計画の見直しを実施

- I Rお問い合わせ

- 東京本社 : 東京都千代田区麴町五丁目1番地
麴町弘済ビルディング 11階・12階
- 担当者 : コーポレートコミュニケーション室 広報IR部 広報IR課
- 電話 : 03-5962-7820
- E-mail : ir@kenkomayo.co.jp

- 将来見通しに関する注意事項

本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述は、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できるとと思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身の判断と責任においてご利用されることを前提に提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。